

標本棚

私と生息調査

金華山島での野外調査

アペックス産業株式会社研究室 篠原 綾乃

大学四年生の時に金華山島に生息するニホンジカの生息調査に参加した。島をメッシュで区切り、各メッシュで調査を行い、ニホンジカを探すと...



宮城県石巻市にある金華山島にはニホンジカが多数生息している。一九六六年からシカの調査が行われており、個体識別もされているため、貴重な研究事例となっている。私の研究室でも人気の調査対象である。

しかし島という狭い環境の中で多くのシカが生息しているため、本土のシカと比べ栄養状態も悪く、体や角も小さく、寿命も短くなっているという。餌資源も少ないため、冬を越せずに死亡する個体もある。そのため春に生息調査を行い、生き残った個体を確認する。各メッシュ一、二人で調査を行う場所によって電波が入らないためトランシーバーで連絡をとった。

シカを見つけた場合、雄、雌、幼獣の識別を行い、雄であれば角がどれだけ枝分かれしているかを見る。四年生という事で宿舎から離れた少々道の険しい箇所を踏査したが、シカに遭遇することにはなかつたが、景色もよく、気持ちのいい場所だった。宿舎の近くには人に慣れたシカの群れがいて、野生動物を近くで観察するとういういい経験ができた。また、金華山島にはニホンザルも生息しており、踏査中、何個体かと遭遇した。

八丈小島のバク

アペックス産業株式会社 代表取締役社長 元木 貢

フジテレビ系列「世界の何だコレ!? ミステリー」の二〇二〇年七月一日放送で、八丈小島のバクが紹介されました。「東京のとある島でかつて、島民に襲いかかった謎の現象。止まらない震え、かゆみ、高熱...そして仕舞いには、足がゾウのように腫れ上がる...」島民はこの現象を「バク」と呼び、迫りくる「謎の病」に恐れをなしていた...

そんな折、噂を聞きつけた一人の男が、この謎を解決すべく島に上陸。果たして、島民が恐れる「バク」とは一体何なのか...という内容で、佐々学先生のフィラリア症のひとつマレー糸状虫の取組みを実話風に仕立てて放映されました。

佐々先生は著書「ノミはなぜはねる」で当時の様子を記述しています。一九四七年七月、加納六郎先生と八丈小島を訪れ、島民三十七名の血液を調査したところ、七名にミクロフィラリア(フィラリアの子虫)を見つけた。スパトニン(チエチルカルバマジン)の効果を試したところ、大部分の患者が激しい寒気を起こして熱を出すという副作用が...



神田鎌蔵先生による採血

その熱は二三日で下がりましたが、血液のミクロフィラリアも消えてしまった。そしてその媒介蚊を探したところ、海岸のロックプールから発生するトウゴウヤブカであることが判った。

研究と治療はその後も続きましたが、一九六九年には高齢化が進み、島民は全員この島を引き払うこととなり、今は無人島となっています。

江戸城築城の秘話(その八)

江戸前島の秘密

江戸文化歴史研究員 窪田 孝

天正一八年(一五九〇)江戸入府時の江戸は太田道灌の築いた城の東側に、平川の河口である日比谷入江と葦の茂る海抜一〜二mの半島があった。さらにその東側にも、石神井川が流れ込み、入江となっていた。二つの入江に挟まれた「入江の戸」であった。

鎌倉時代の古文書に武蔵国豊島郡江戸郷之内前島村とあり、鎌倉円覚寺の文書には、建武四年(一三三七)に「江戸郷内前嶋」とあり、前島は鎌倉時代から三百年近く鎌倉円覚寺の領地であった。現在の中央通りの両側で、川の



羽音

のり鉄・とり鉄のみ鉄(その二) 三井化学アグロ 谷 和功 元代表取締役社長

松浦鉄道「MR」の旅 松浦鉄道は、元国鉄の松浦線(佐賀県有田)伊万里〜長崎県平戸〜佐世保を第三セクターに転換してできた日本最西端を走る普通鉄道です。(軌道法での最西端は沖縄都市モノレール線「ゆいレール」) その通称「MR」が、小生が担当していた三井化学(株)の高屈折率メガネレンズ材料「MRシリーズ」と同名であることから、車両の命名権を買って、「メガネレンズ号」として昨年一年間走っていました。

「MRシリーズ」は、プラスチック製のいわゆる「薄型レンズ」の材料として、世界シェア九割を誇り、松浦鉄道と同じ九州の福岡県大牟田で生産しています。(殺虫剤も作っています)

「メガネレンズ号」の吊広告...小生の作品「桜の駅」浦ノ崎にて



平川、石神井川と隅田川の河口で葦の浅瀬と湯が広がっていた。

江戸に入府した徳川家康は、江戸を本拠として都市づくりを完遂するためにはこの前島の処置が必要であった。寛永九年(一六三二)に描かれたとされる



「桜の駅」浦ノ崎の「メガネレンズ号」

有田から佐世保へは、JR特急で三十分程ですが、松浦鉄道だと海沿いをぐるっと回って二時間半かかります。有田、伊万里という焼き物の町は、これから陶器市などで

大いに賑わいますし、最西端駅「たびら平戸口」は、世界文化遺産に指定された潜伏キリシタン集落や平戸城のある平戸の最寄り駅です。平戸城から海を臨む景色は素晴らしく、すぐ近くに「森酒造場」という造り酒屋があります。酒の肴は玄海の魚:イカの活造りや、アジ・サバ日本一の水揚げを誇る松浦漁港のアジフライも最高です。沿線には他にも潜龍酒造(江迎鹿町)などいくつもの酒屋があり、酒蔵見学ができます。終点の佐世保では、もちろん佐世保バーガーとビールです。松浦鉄道最高の季節は春、桜の咲く季節で、「桜の駅」浦ノ崎では桜祭りも催され、桜のトンネルを通る列車は、絶好の撮影ポイントとなっています。桜と酒と魚が絶好のローカル線の旅に、ぜひお出かけください!

る、武州豊嶋郡江戸庄図は、初期の江戸図を代表する絵図で、現在知られている限り、最も古く内容が正確だと言われ、江戸初期の町や区画の様子を知ることが出来る。この絵図によると、急速に増加する江戸の街の建設は、入江の埋め立てと前島を中心とした街作りが重要な役割を果たしている。舟運、防衛、防災の為、内濠、外濠をめぐらせ強化した城下町は、江戸前島の痕跡も消え去り日本一の城下町として発展していく。

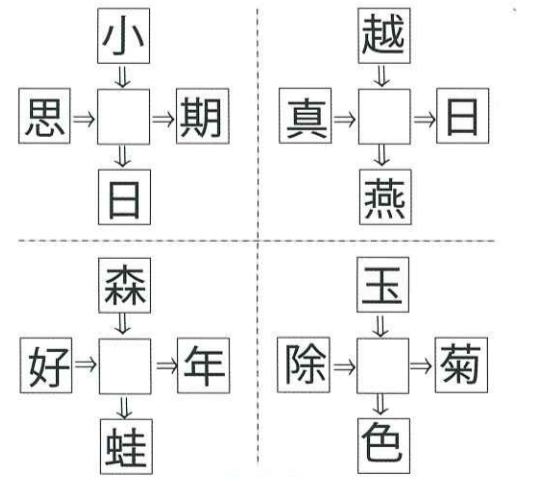


武州豊嶋郡江戸(庄)図(1632)

触覚 BOOK 二〇一三年、国際連合食料農業機関(FAO)が「食品及び飼料における昆虫類の役割に注目する報告書」を発表し、良質なタンパクや鉄分等が豊富な昆虫を食糧や飼料として利用すること等について報告しています。日本でも古くからイナゴやぎざむし等の佃煮が知られ、最近では自動販売機による販売も見られます。どちらもタイ産で中身は虫そのもの。一応火が通って塩味が付いていますが、ただただ乾燥した虫です。ゲンゴロウとタガメをおみやげと持ってきたまま、体長十五cm程度、眼も非常に大きく怖い。恐る恐る翅からかじってみると、パリパリとした食感で、乾燥エビのような風味です。これはいけそうだな?と感じ、思い切って頭から食べてみました。香りはエビ。ただ、脚や頭が固く、口の中に刺さって痛いです。川エビの素揚げを食べたような感覚で、身が無くひたすら外皮が口に残る印象でした。さて、次にゲンゴロウにも挑戦。これは臭い。中身が昆虫の飼育ケージのような臭いがして、エビのような感覚は全くありません。結果、タガメは臭いがあってもなんとかツマミになったと思えました。

むしくいず

「問題」ヒント文字を参考に、三文字熟語を作ってください。残ったヒント文字で四字熟語が出来ます。それが答えです。



ヒント文字 大春日冬安青吉虫

◆応募規定 ハガキまたはファクシミリで、答え、住所、氏名、当社との関係を明記の上、ご応募ください。〒105-0014 東京都港区芝2の23の4 アペックス産業株式会社 APEX CLUB宛 ファクシミリ番号 03-3455-6558 令和3年2月末日(当日消印有効) 正解者の中から抽選で若干名様に記念品を差し上げます。★前号の正解と当選者(順不同) 正解は『仕事』でした。 今回の当選者は、山内健生様、落合貴志様、宮崎陽介様